



八 剣 山 通 信

第 1 7 号

八 剣 山 発 見 隊

2003年 9 月 1 4 日 発行

9月13日(土) 「環境講演会」を実施しました。

【行事の概要】

これまで私たちは、人より少しでも多くの利益を得ること、少しでも楽な生活を送ることを目標として、競い合ってきたのではないのでしょうか。いろいろな技術が開発され大量に生産されるようになり、私たちの周囲には多くの物があふれ、生活は少しずつ便利になってきたと言えるでしょう。

しかし、そのことにより私たちは、以前よりも幸せになつたと言えるのでしょうか。便利さを追い求めた結果、数多くの問題が発生してきたのではないのでしょうか。

その一つが、私たちの生存にも関わる重要な問題である「環境」に関してであると言えます。私たちの生存を脅かす問題として、近年は、生活の中で排出されるゴミの問題が取り上げられており、国もリサイクル法などを制定して取り組むとともに多くの市町村においてゴミの分別回収が行われ、ゴミのリサイクルが進んできています。しかし、環境を守るために一番効果的なのはゴミを出さないことではないのでしょうか。

今回、環境問題について先進国と言われるドイツからピアンカさんご家族が来られましたので、ドイツでは環境問題について、家庭内でどのように取り組まれているのか実情を話していただき、日本の取り組みとどのように違うのかを比較するとともに、私たちができる方法について考えてみたいと思います。

- ・ テーマ : ドイツのリサイクル政策と各家庭が行っているリサイクル活動
- ・ 講 師 : ビルギット・ピアンカ・フルスト さん (桜井学さん奥様)
タマル・ミュンツェン・フルスト さん (ピアンカさんの妹)
ドロー・フルスト さん (ピアンカさんのお母様)
アンナリー・テベス さん (ピアンカさんの叔母様)
ルート・フルスト さん (ピアンカさんのお父様)
エルビン・シーレ さん
- ・ 主 催 : 八剣山地域の環境を考える会
- ・ 後 援 : 札幌市、八剣山発見隊

【今回の行事実施場所】



【行事の感想】

はじめに「八剣山地域の環境を考える会」世話人代表の小林久公さんから各講師の紹介を行いました。

続いて、ピアンカさんからゴミを出さない工夫例として、ドイツのお祭りでは使い回しのできる容器を利用し、コップや皿の洗浄は専用の車両を導入していること、お祭り参加者が自分のコップや皿を持参していること、朝市などで包装をしないで販売などを行っていることについて発表。

タマル・ミュンツェン・フルスト さんからは、ドイツのデポジット制度について、ヨーグルトや牛乳などはリターナブル瓶を利用、ペットボトルはデポジット制度が義務づけられていること(75円程度)、子供が出かける時はボトルを持参させることなどについて発表。

ドロー・フルスト さんからは、お父さんが昔から環境教育を家族に行っていたこと、日本で生ゴミをゴミとして出すことに驚いたこと、ドイツでは生ゴミをバイオ発電の燃料として利用していること、ドイツでも、はじめは不可能と思われる仕組みが、みんなで行うことで可能となったこと、バイオ発電のために生ゴミの取り扱いがおきていることについて発表がありました。

意見交換ののち、昼食として、じゃが芋やパスタ、ソーセージによるドイツの手作りの家庭料理を食べるとともに食後は、交流会を実施しました。



【講師との記念撮影】

【今後の行事予定】

- ・ 10月5日 収穫祭(主催:中小企業家同友会)
- ・ 11月8日 越冬野菜の貯蔵体験

9月20日「八剣山発見隊ホームページ」開設

発行: 八剣山発見隊事務局(八剣山果樹園)
061-2275 札幌市南区砥山126番地
011-596-2280 FAX 011-596-2280
ホームページ: <http://sapporo.cool.ne.jp/usimov/>

9月13日 環境講演会



【叔母さん、妹さん、お母さん、ピアンカさん】



【小林代表、お父さん、シーレさん】



【ピアンカさんの発表】



【妹さんの発表・ピアンカさん通訳】



【お母さんの発表・ピアンカさん通訳】



【記念品（風呂敷）プレゼント】

